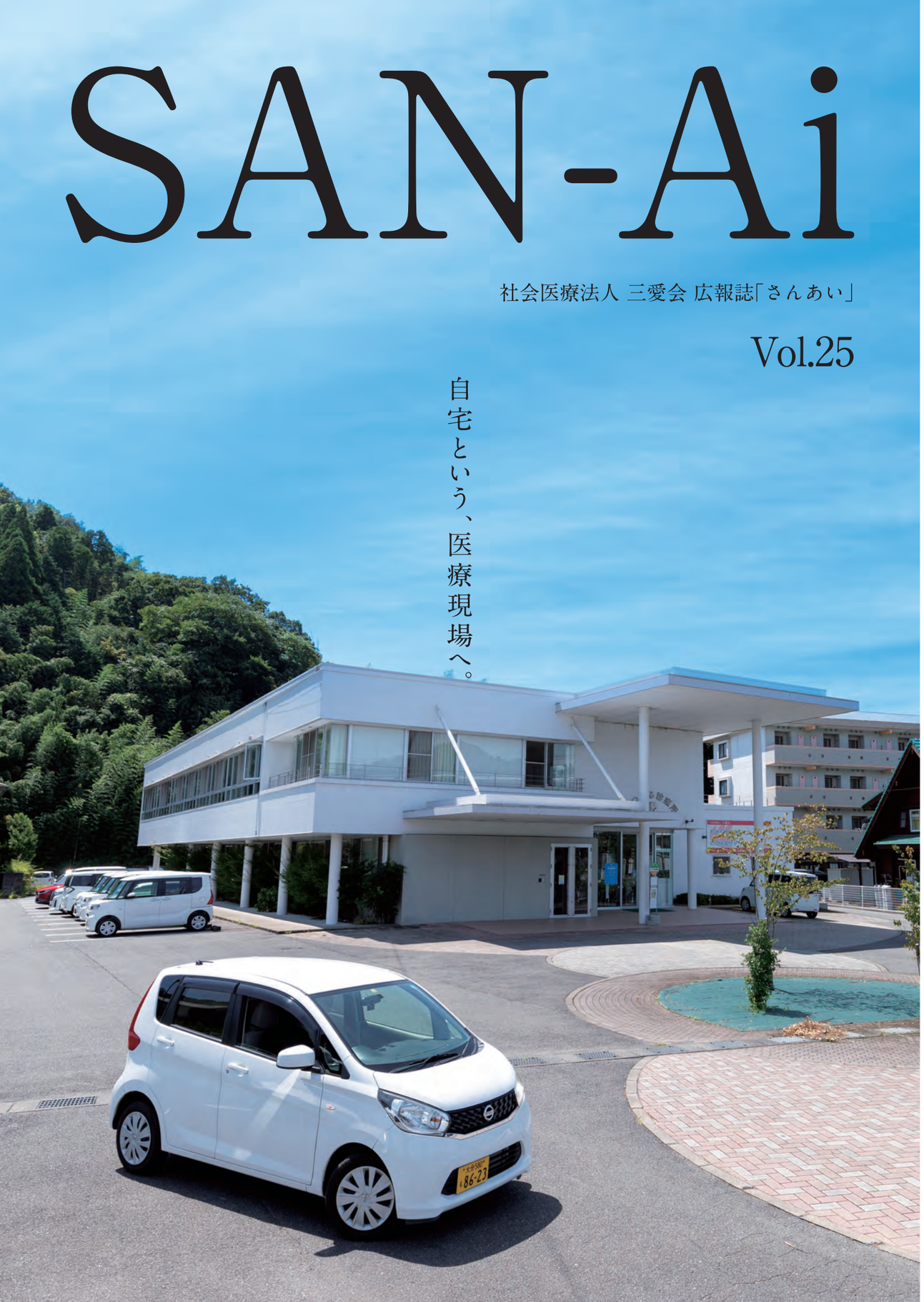
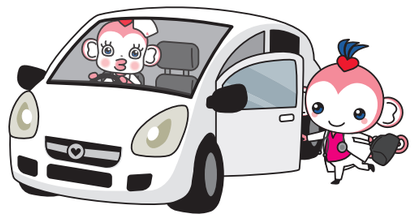
SAN-Ai

社会医療法人 三愛会 広報誌「さんあい」

Vol.25

自宅という、医療現場へ。





ひとに笑顔を ちいきに"愛"を
社会医療法人 三愛会

社会医療法人 三愛会 広報誌「SAN-Ai」Vol.25（2022年10月1日発行）
発行元/〒870-1151 大分市大字市1213番地 TEL.097-541-1311 社会医療法人 三愛会 大分三愛メディカルセンター 広報委員会
社会医療法人 三愛会/www.san-ai-group.org/　三愛総合健診センター/www.kenkou-oita.com

FOCUS

「訪問」地域医療の未来を担う。

2020年代に入るとともにやってきたコロナ禍、それもすでに2年半が過ぎ、気がつけば2023年という新たな年への準備が始まろうとしている。

それからあと2年。2025年になると、いわゆる「団塊の世代」と呼ばれる約800万人の日本国民が、75歳以上の後期高齢者となる。「2025年問題」が、いよいよ目の前に迫ってきた。

日本人約1億2,580万人のうち、後期高齢者だけで17%前後、65歳以上に至っては35%を超える。超高齢化社会自体はすでにやってきており、医療・介護の面でも問題は山積している。そして、高齢者の療養の場は医療機関から在宅へ。今、「在宅医療」の推進が急激に求められている。

もちろん、高齢者本人たちの意思の移り変わりも要因の一つだ。治る見込みがない病状となった場合、60歳以上の方々の51%、半数以上が、自身の自宅で最期を迎えたいと希望している。理由としては、「最期まで自分らしく好きなように過ごしたいから」「住み慣れた場所で最期を迎えたいから」「家族などとの時間を多くとりたいから」「家族などに看取られて最期を迎えたいから」、さらには「経済的に負担が大きいと思うから」といった回答が多くを占めている（令和元年版高齢社会白書より）。

1992年の第2次医療法改正により「居宅」が医療提供の場として位置づけられたように、在宅診療の推進は、制度の確立と共に歩を進めている。そして2020年以降、新型コロナウイルスの流行がさらにそれを加速させる要因となった。

社会医療法人三愛会の中でも、今後の地域医療を見据えたとき、「在宅」「訪問」というキーワードが必ず挙がる。

今回は、三愛会の各事業所が担う「在宅医療」にフォーカスする。

たばるクリニックより、訪問診療のため車に乗り込む院長・白坂千秋。

FOCUS ／ ①訪問診療

引き継がれる、地域への想い。

「のつはる診療所」、新院長就任。

社会医療法人三愛会の事業所の一つである「のつはる診療所」は、2002年の新築移転後、白坂千秋（現／たばるクリニック院長）が就任以来、積極的に野津原地域の在宅・訪問診療を担ってきた。そして、2022年8月、大分三愛メディカルセンターの外科より、阿南勝宏が新たな院長に就任した。訪問診療には、主に患者の自宅、そして介護施設への訪問がある。白坂院長の時代より週に2度、近隣高齢者施設への訪問診療は行っているが、早速それを引き継ぐ。阿南院長自らが運転して、患者のもとへ向かう日々が始まった。自宅への訪問も、今後少しずつ数を増やしていく予定だ。野津原地域も、人口減少や高齢化が進む地域であり、さまざまな資源を利用した医療・介護が求められている。ときに大分三愛メディカルセンターへの手術応援に赴きながら、阿南院長は、今日も車両に乗り込み、植田・野津原地域を駆けまわっている。

阿南院長自らが運転し、訪問診療に向かう。

阿南 勝宏
あなみ かつひろ

出身大学／大分大学
専門分野／消化器外科、一般外科
認定資格等/日本外科学会 専門医、日本消化器内視鏡学会 専門医、日本消化器外科学会、消化器外科専門医、日本消化器外科学会、消化器がん外科治療認定医

のつはる診療所

在宅支援診療所としての地域の診療所であり、デイケア（リハビリテーションやレクリエーション）も行い、地域住民の健康管理および増進に貢献できるよう努めている。

たばるクリニック

2017年の開設以来、介護老人保健施設とグループホームを併設し、地域の医療・介護を担ってきた。地域の方々の健康増進をめざして、24時間365日の体制で訪問診療を実施している。

現在、近隣の自宅や有料老人ホームなどへの訪問診療を強化中。三愛会事業所はもちろん、連携する医療介護機関とともに多職種連携を図り、地域から必要とされる訪問診療をめざして邁進している。

庄内診療所

2021年9月に再度、社会医療法人三愛会に加入する。1987年の開設以来、30年以上の長きにわたり、由布・庄内地域の医療の一翼を担っている。

こちらでも、院長の狩峰信也が、2つの高齢者施設・福祉施設を定期的に訪問。月に2回程度、10～40名の患者を診ている。

FOCUS ／ ②訪問看護

ライフラインとしての医療の役割。

「訪問診療」というと、医師による在宅医療のイメージが強いが、看護師による「訪問看護」は、在宅医療の世界では医療機関内での看護以上に、非常に大きな役割を担っている。

２０２０年以来、「感染対策」「接触感染」というイメージのため、利用を控えられているような印象もあるかもしれないが、現実は全くの逆で、コロナ禍が拍車をかけ、その需要はさらに高まっている。その要因はさまざまであるが、コロナ対応のため病院に入院できず、在宅での看護に頼るケースなどが増加の一因だ。施設などの面会制限などもあり、在宅での療養や看取りを希望する患者も多い。ほかにも感染対策のために医療機関に赴くことを控え、自宅での看護を希望する人も増えた。もちろん、コロナ禍と関係のないところで、高齢者や末期がん患者が「家で過ごしたい」「最期は家にいたい」といった要望を求めていたり、「体調が悪化しても入院を選ばない」という考え方の人が一定数いることも大きい。そういった変わりゆく世の中で、訪問看護師の役割は拡大し続けている。

２０２１年に「わさだ訪問看護ステーション」から「三愛訪問看護ステーション」へと改称。大分三愛メディカルセンター内にある本部と、椎迫、たばるのサテライト事務所の計３か所から日々、利用者の自宅・施設へ赴く。

続くコロナ禍の中で、陽性者や濃厚接触者の増加により、一時的に機能を休止する医療機関は増えた。しかし訪問看護は、簡単に止めるわけにはいかない。医療機関へ赴くことができない、という人々の毎日を支えるライフラインとして、感染防護具に身を包み、訪問看護師・訪問セラピストたちは、市内をまわりつづけている。

患者が待つ自宅や施設に向かう訪問看護師。

訪問看護機能（三愛訪問看護ステーションの場合）

病状観察	病気や障害の状態、血圧・体温・脈拍などのチェック
医療機器の管理	在宅酸素、人工呼吸器などの管理
認知症ケア	事故防止など、認知症介護の相談・工夫をアドバイス
床ずれ予防・処置	床ずれ防止の工夫や指導・床ずれの手当て
医師の指示による医療処置	かかりつけ医の指示に基づく医療処置
療養上のお世話	身体の清拭、洗髪、入浴、食事や排泄などの介助・指導
ご家族への介護支援・相談	介護方法の指導ほか、さまざまな相談対応
介護予防	低栄養や運動機能低下を防ぐアドバイス
在宅でのリハビリテーション	身体機能や活動性の向上、摂食嚥下練習など
ターミナルケア	がん末期や終末期でも、自宅で過ごせるようお手伝い

三愛訪問看護ステーション事務所。

訪問看護の申し込み方は?

・かかりつけの医師に依頼し、訪問看護を申し込む。
・訪問看護ステーションへの申し込みも可能。
・ケアマネージャー（介護支援専門員）に相談し、申し込む。

FOCUS／③訪問リハビリテーション

自宅で受けられるサービスを拡充。

医師による訪問診療、看護師による訪問看護、そして介護士による訪問介護などがある中、忘れてはならないのが、セラピスト（理学療法士や作業療法士など）による「訪問リハビリテーション」だ。医療機関でのリハビリテーションや、施設のショートステイ・デイケアなどでのリハビリテーションは多くの機関が行っているが、自宅でリハビリサービスを受けられる機関は未だ少ない。

大分三愛メディカルセンターに隣接する「介護老人保健施設わさだケアセンター」では、２０２１年の9月より、施設のセラピストが自宅・施設へ赴いてリハビリテーションを行う事業を開始した。この秋より、担当スタッフを3名に増員。開始当初から多くの依頼を受け、近隣地域を走りまわっている。

コロナ禍で運動不足、という言葉はよく耳にするが、高齢者にいたっては、数日間運動をしないことで大きく身体機能が低下してしまい、衰えの一途を辿ってしまうことも多い。デイケアなど、施設へ赴いてのリハビリテーションの機会がなくなってしまうと、体を動かす機会がなくなってしまう。そういった高齢者たちは、心身ともに衰えを実感してしまっていることが多いらしい。

訪問リハビリテーションでは、医師やリハビリテーションの専門職などが協働で個別計画書を作成し、身体機能の維持・回復を促している。訪問看護同様、コロナ禍において、より重大な役割を担うようになった事業の一つだ。

この訪問リハビリテーションは、前述の三愛訪問看護ステーションにおいても、以前より実施している。看護師といっしょに訪問して、看護の分野と連携をとりつつ、患者の状態を確認し、健康維持に努めている。

患者の自宅に訪問し、リハビリテーションを行う、わさだケアセンターのセラピスト。

実際の生活環境に沿った高度なリハビリを自宅で。

リハビリテーションの専門職が患者の自宅を訪問し、実際の生活環境に沿った、効果的なリハビリテーションを実施する。自宅で介護されるご家族へのアドバイスのほか、介護についての相談も行う。また、安心な生活の提供、自宅での生活困難の改善、身体機能の維持・向上および評価も行う。

２０２２年10月現在、わさだケアセンターの訪問リハビリテーション担当スタッフとして、理学療法士2名と作業療法士1名が在籍している。

作業療法士／松原 祥子

理学療法士／平松 寿巳

理学療法士／池田 勇太

セラピスト別・リハビリテーション内容の例

理学療法士（理学療法）	関節可動域練習、筋力向上練習、基本動作練習（立ち上がり、歩行など）、基本動作介助指導
作業療法士（作業療法）	生活動作練習（トイレ、入浴、食事など）、役割や趣味、生きがいの再獲得、生活動作介助指導、福祉用具、住宅改修のアドバイス
言語聴覚士（言語療法）	コミュニケーション練習、嚥下練習、食事介助動作指導

介護老人保健施設

わさだケアセンター

医師による医学管理のもと、看護・介護やリハビリテーションなどのサービスを受けることができる。各種の専門スタッフが、より長く在宅生活を続けられるよう支援していく。

Pick up!

こんな在宅医療も。

在宅血液透析

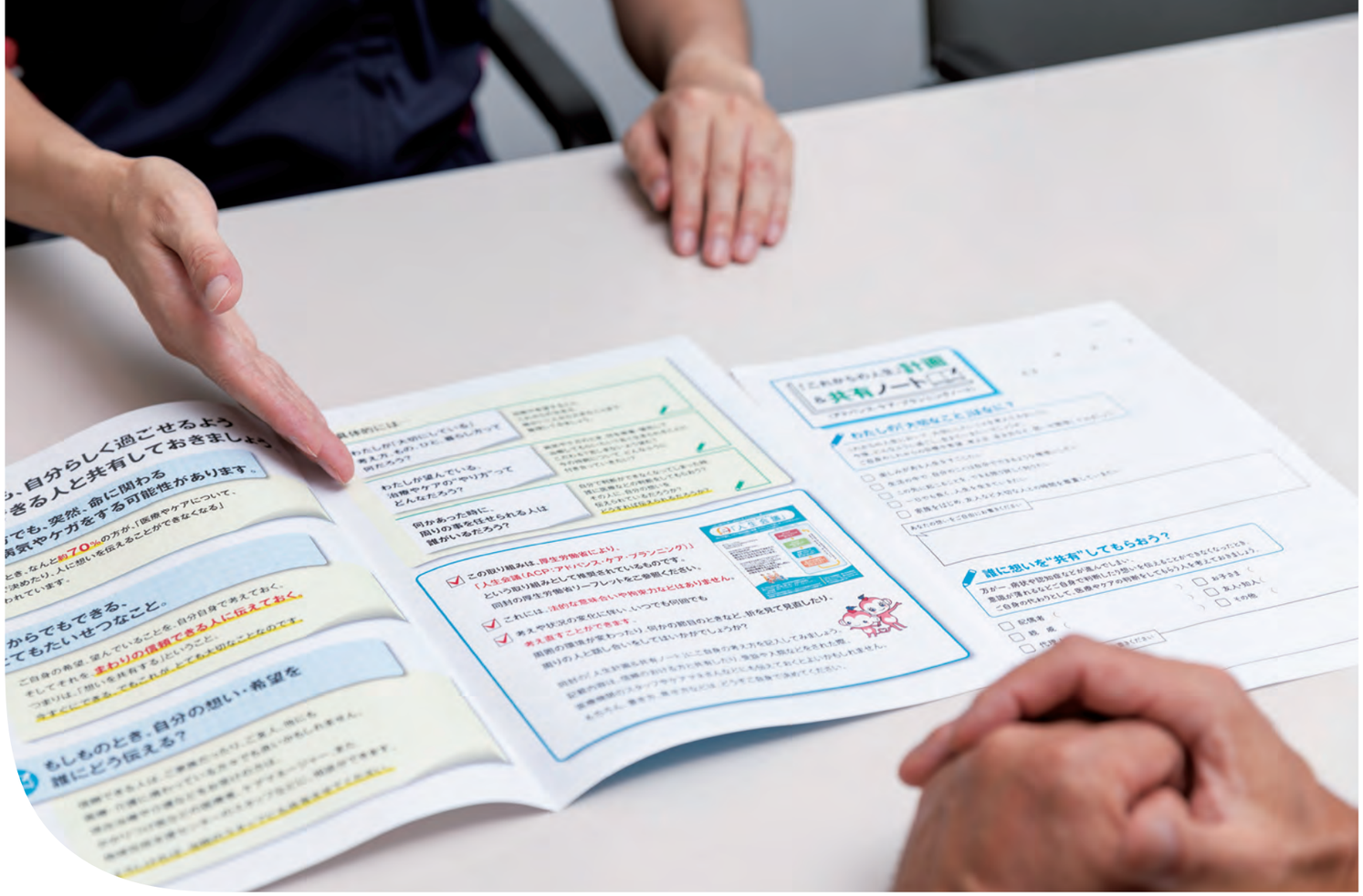
大分三愛メディカルセンターの透析センターでは、入院・外来での透析のほか、全国でも数少ない「在宅血液透析」もサポートしている。通院することなく、自分のライフスタイルに合わせて自宅で透析を行なう治療。月に1回、病院の臨床工学技士が自宅を訪問し、機器の動作確認などの保守点検や物品の在庫を確認。特に透析時間や透析回数を施設での透析以上に確保できるため、合併症の予防や社会復帰に大きく貢献できるといわれている。

自宅へ向かう臨床工学技士。

自宅内で透析が行える。

「これからの人生」計画
&共有ノート

希望（おもい）は、共有（つたえること）が必要な時代。



大分三愛メディカルセンターでは、医師・看護師・ソーシャルワーカーなどが説明し、記入を勧める。

昔のイメージで考えてみると、診察・看護・リハビリテーションは、「病院で」受けることが当たり前だった。さまざまな選択肢のある現代、在宅での診療を選ぶように、生き方そのものの選択肢も変容してきた。

それは、「自分らしさ」という言葉のもとで発展し続けている。最期の時を考えるようになった高齢者のみならず、意思疎通ができなくなるような事故・大病は、老若男女を問わず、「いつやってくるか」わからない。「最期の時をどう迎えるか」といった究極的な選択肢のみならず、日常の生き方を含め、まずそれを「考えて」おき、「信頼できる人と共有」し、そして、もしもの事が起こったとき、その想いを「実現させる」。

厚生労働省が「人生会議（ACP／アドバンス・ケア・プランニング）」と称して推奨する取り組みについて、大分三愛メディカルセンターでは、その意図をわかりやすく編集し、導入しやすくしたオリジナルのツール【『これからの人生』計画&共有ノート】を制作。患者一人一人の想いを共有している。

【『これからの人生』計画&共有ノート】には、特に難解な文言は書かれていない。

・わたしの「大切なこと」はなに？
・想いを共有してもらいたい人は？
・今後の治療・ケアは
どのようにしてもらいたい？
・病気で動けなくなったら、どこで
どのようにしてもらいたい？

…といった、自分自身の希望を自由に記載する設問が並ぶ。法的な意味合いや拘束力はなく、「いま」の考えを記入して、考え方が変わったら書き直すこともできる。たとえば事故や病気で寝たきりになったり、たとえば認知症になって意思疎通が困難になったり、年齢などに関係なく、誰もが突然、そんな状況に陥ってしまうことはあり得る。そんなときに重要なのは、自分自身の想い（要望・希望）を、「事前」に「信頼のおける人」と「共有」できているかどうかだ。信頼のおける人、というのは、家族はもちろん、友人などのほか、医療関係者や介護関係者、ケアマネージャー、地域包括支援センターの職員など、人によってさまざまだ。その人たちに、いかに「共有」、つまり「事前に伝えられるか」が最重要なポイントだ。少し重々しい言い方に変えると、これは「エンディングノート」であったり、「終活」、「延命処置の方針」、「遺言」といった表現になるかもしれない。

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）プロセス

STEP①
自分の希望や思いについて考える。
自分の生活で大切にしたいことや希望について、今の気持ちで、まずは考えてみる。

STEP②
自分の健康について学ぶ。
かかりつけ医や主治医などに相談してみる。今後どういう経過をたどるのか、どういう治療の選択肢があるのかを知ることができ、自分の希望や気持ちを交えながら質問することで、より明確になっていく。

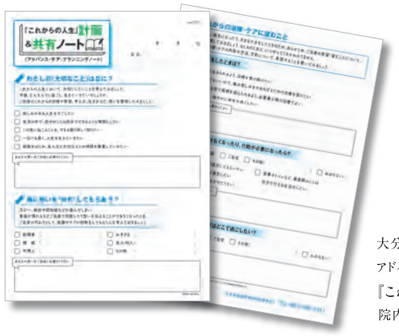
STEP③
自分の代わりに意思決定をしてくれる人を選ぶ。
予期しない事故や突然の病気などで、自分の意思を伝えることができなくなったとき、代わりに意思を伝えてくれる人が必要になる。自分の意思を尊重して判断できる人を選ぶことが重要である。周囲にも代理人を紹介しておくと安心。

STEP④
自分の希望や思いについて伝える。
自分の希望や思いについて、周囲の人たちに伝え、話し合う。お互いの理解が深まり、これからの生き方を見つめることにもつながる。少しずつ時間をかけて話し合うことが大切。

STEP⑤
自分の希望や思いを文章にする。
医療やケアに関する自分の希望を書き出しておく。文書に残しておくことで、もしも自分が意思決定できなくなった時、周囲の人が判断するのに役立つ。

考えが変われば、またSTEP①へ。

病院スタッフとしても、非常に慎重な言葉選びを求められるものだが、その「イメージ自体」を変えていく必要はあるだろうと考えている。〝気軽に〟とまではいえないが、誰しも「明日、もしもの事が起こるかも」という意識を持ち、その「もしものこと」が起こったときに、「自分らしさ」を守るために。周囲の人たちに伝えておくべきことを考えるため、もしくはそのキッカケという簡単なものでも良いから。少しだけ、これからの人生について「あの人」といっしょに話してみてはいかがだろうか。



大分三愛メディカルセンターのオリジナル
アドバンス・ケア・プランニングノート
『これからの人生』計画&共有ノートは
院内で無料配布している。

[社会医療法人 三愛会]

大分三愛メディカルセンター
三愛総合健診センター

所　在　地　〒870-1151 大分県大分市大字市1213番地
T　E　L　097-541-1311
F　A　X　097-541-5218
病　床　数　190床
診　療　科　脳卒中センター、消化器病・内視鏡センター、運動器センター、救急外傷センター（ER）、人工透析センター、画像診断センター、リハビリテーションセンター、救急科・外科・消化器外科・心臓血管外科・呼吸器外科・乳腺外科・大腸肛門外科・脳神経外科・整形外科・泌尿器科（人工透析）・形成外科・内科・総合診療科・消化器内科・呼吸器内科・循環器内科・糖尿病内分泌内科・リウマチ科・神経内科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科
専門外来受付　8:15～12:00/13:30～17:00
※診療開始時間は診療科によって異なります。
休　診　日　日曜日・祝日・土曜日午後
※但し、救急・時間外診療は24時間体制です。
認定施設　二次救急指定病院、大分DMAT指定病院、DPC対象病院、日本医療機能評価機構認定病院

介護保険相談センター さんあい
（大分三愛メディカルセンター内）

T　E　L　097-542-7409
サービス　居宅介護支援、介護予防居宅介護支援

三愛訪問看護ステーション
（大分三愛メディカルセンター内）

T　E　L　097-541-7007
サービス　訪問看護、介護予防訪問看護

のつはる診療所

所　在　地　〒870-1203 大分市大字野津原906番地の1
T　E　L　097-588-1311
診療科目　外科・内科・整形外科・循環器内科・リハビリテーション科
病　床　数　19床
サービス　通所リハビリテーション（デイケア）、介護保険相談センター
HPアドレス　notsuharu-san-ai.com/

三愛呼吸器クリニック

所　在　地　〒870-1143 大分市田尻419-1
T　E　L　097-541-2588
診療科目　呼吸器内科・内科
サービス　呼吸リハビリテーション
HPアドレス　kokyu-oita.com

たばるクリニック

所　在　地　〒870-1154 大分市大字田原字深田936番地1の1
T　E　L　097-541-2345
診療科目　外科・内科・消化器外科・リハビリテーション科
サービス　訪問看護ステーション

介護老人保健施設 たばる
（たばるクリニック併設）

T　E　L　097-542-4139
サービス　入所サービス、短期入所療養介護（ショートステイ）、通所リハビリテーション（デイケア）

グループホームたばる
（たばるクリニック併設）

T　E　L　097-541-5298
サービス　入所サービス

庄内診療所

所　在　地　〒879-5421 由布市庄内町柿原280番地1
T　E　L　097-582-3600
F　A　X　097-582-3619
病　床　数　19床
診　療　科　内科・消化器内科・外科・消化器外科・整形外科・リハビリテーション科

介護老人保健施設 わさだケアセンター

所　在　地　〒870-1151 大分市大字市字大坪11番地の2
T　E　L　097-541-6655
サービス　入所サービス、短期入所療養介護（ショートステイ）、通所リハビリテーション（デイケア）
HPアドレス　wasada-care-center.com ※アドレスを変更しています

有料老人ホーム さんさん

所　在　地　〒870-1151 大分市大字市566番地の3
T　E　L　097-529-5580
サービス　住宅型有料老人ホーム

さんあいヘルパーステーション
（有料老人ホームさんさん内）

T　E　L　097-529-5582
サービス　訪問介護、介護予防訪問介護

[社会福祉法人 三愛会]

特別養護老人ホーム そうだ藤の森

所　在　地　〒870-1123 大分市大字寒田202番地
T　E　L　097-567-8822

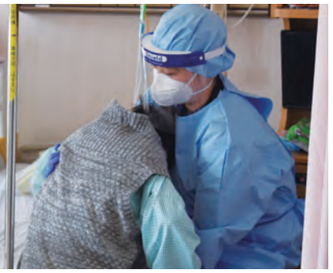
天領ガーデン・ふれあい館

所　在　地　〒870-1143 大分市大字田尻高尾783-1
T　E　L　097-578-7122

特別養護老人ホーム 天領ガーデン
（天領ガーデン・ふれあい館内）

T　E　L　097-574-7500

ドライブスルー発熱外来にて。



夜間当番時の発熱外来を開設。

延々と続く、激務の中で。

本広報誌内でも都度、新型コロナウイルス感染症への対応は綴ってまいりました。相も変わらず、大分三愛メディカルセンターをはじめとする社会医療法人三愛会は、「陽性者入院受け入れ」「かぜ（発熱）外来」「コロナウイルスワクチン接種」「日々の感染対策」をはじめとして、すでに2年半以上にも渡り、可能な限りの対応を延々と続けています。

２０２２年に入ってすぐ、いわゆる第６波が到来し、それが収まらぬまま第７波を迎えました。新規陽性者数は落ち着きつつありますが、医療機関では中等症・重症患者さまの対応を中心に、山場は未だ過ぎ去っていません。

今年の夏は「行動制限のない…」という言葉が飛び交い、地域の皆さまも、コロナ禍前の生活に近い夏休みなどをお過ごしになられたかと思います。ところが医療機関としては、実はこれまでで一番過酷な日々であったことも事実でした。他の医療機関同様、次々と病院職員が陽性者もしくは濃厚接触者・接触者となり、現場を離脱する事態が起きました。常時５％程度が欠員となるような状況の中、コロナ対応と一般診療を、綱渡りのような日々でなんとか継続してきた夏。大分三愛メディカルセンターでも、職員の疲弊のピークを迎え、それに伴う重大医療事故を未然に防ぐため、８月末、遂に一時的に診療制限をかける判断を下しています。

発熱外来においても多数のお問い合せが殺到し、お断りせざるを得ない日々が常態化しました。職員たちの「できる限り診たい」という想いも虚しく、歯痒い状況に甘んじることも多くありました。８月14日、お盆の日曜日には、初の試みとして「ドライブスルー型発熱外来」を実施。夜間を含め、１８０名近くの患者さまを診ることができましたが、それでも多くの患者さまをお断りしています。

大変申し訳ないという想いと、それでも、「いま、できる限りのことは行おう」という使命感が交じり合った中で、気がつけば秋も一段と深まっております。先のことを予想することはできませんが、法人内の各事業所が、地域の健康を守るため、相も変わらず、また次の冬に備えています。

地域の皆さまにおかれましても、どうかご自愛いただきながら、温かく見守っていただけましたら幸いです。